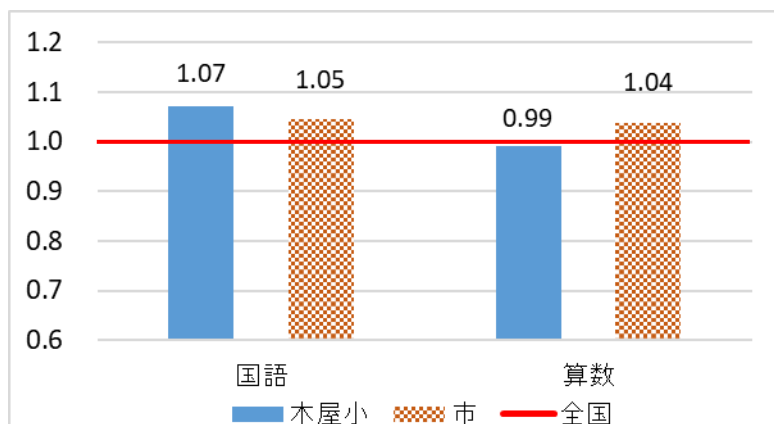


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

友呂岐中学校区 木屋小学校

第6学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

平均正答率が全国平均を上回っており、良好な状況である。しかし、漢字を文の中で正しく使って書き直す問題では課題がある。また、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題にも課題がある。漢字の読み書きの指導を充実させ、文から重要な事柄をまとめて書く練習などを通して、課題を克服することが必要である。

【算数】

平均正答率が全国平均をやや下回っている。問題「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」、「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」については、ほぼ全国平均正答率と同程度で、おおむね良好な状況である。一方、示された図形の面積の求め方や「30mを1とした時に12mが0.4に当たるわけを書く」問題等に課題が見られた。今後、復習問題に取り組むなど、より細かく学習の定着率を確認していく。

【質問紙調査】

「国語・算数の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答は、全国平均を上回っている。また、授業や学校生活に対して肯定的に捉えている児童の割合が多く、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに肯定的な回答も全国平均を超え、約90%である。今後、より一層魅力ある学校を目指して取り組む。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区学力向上部会にて調査内容の分析を行い、成果と課題を明確化し、3校教職員全員で共有した。今後は、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしてまとめていく力や、場面の状況を捉え、得られた結果から判断する力を、教科を横断しながら育成することを継続していく。さらには3校で協働して委員会活動に取り組み、児童・生徒のキャリア育成を図っていく。

【学校】

漢字や、数と計算など基礎基本をしっかり定着させ、そのうえで、問われている内容を踏まえ重要な事柄をまとめるなど考える力の育成につなげる。また、校内漢字検定や確認テストを行い、児童一人ひとりの達成状況を確認しながら学習を進める。